

淡水化プラントにより人工透析患者を救う

株式会社竹中工務店大阪本店 他協力業者

1 活動を始めた経過

地震発生後、同社の大阪本店から六甲アイランドの工事作業所に、「移動式海水淡水化プラント（緊急造水車）」を確保しているが、震災後ライフラインがストップしている六甲アイランドの住民の生活用水として活用できないかとの申し出があった。

一方、震災直後より島内で水、食料の補給を行っていた(株)積水ハウスからの情報で、島内の唯一の基幹病院である六甲アイランド病院では人工透析用及び洗浄用の水が不足しており、何らかの方法での水の確保が必要であるとのことであった。同作業所の判断により、既に島内に配置していた同プラントを病院の医療業務に使用することを決定した。また、病院で使用した後、余裕があった場合に六甲アイランドの住民の生活用水として利用するという前提で活動を開始した。

2 活動の内容

六甲アイランド病院からの依頼により、22日から同プラントを島内の向洋町東3丁目のRF-1バース（フェリー乗船場）に配置し、岸壁から汲み上げた海水を同プラントにより浄化、淡水化の作業を行い、1日に約100トンの真水を精製した。その精製した真水をタンクローリー車に積んで六甲アイランド病院へピストン運転を実施した。

これにより、1日に100人前後の患者の透析を可能とするとともに病院への水の供給が安定した。なお、この活動は六甲アイランドに水道が復旧する2月2日まで継続して実施された。

3 活動した期間

開始 平成7年1月22日（日）

終了 平成7年2月 2日（木）

4 活動上の苦勞

- (1) 地震後の余震が続く最中での活動により、作業員の精神的疲労が蓄積した。
- (2) 期間中は終日処理活動を行い、また、当該プラントのオペレーターの交替要員がいなかったためにオペレーターは作業中は仮眠程度しかできなかった。
- (3) プラント運転用の燃料の確保が困難であった。